

癸氣揚揚

第12号

新しい自分との出会い

新入生の皆さん、高校生活を始めて一ヶ月が経ちましたね。新しい生活、新しい環境、新しい学び、全てにおいて「新しい」が形容詞となることで、新しい不安もあるのではないかと思います。約10年近く、幼稚園や保育園、小学校、そして中学校と、同じ環境、同じ文化、同じ地域の中での生活は、知らず知らずのうちに自分の個性や思いといった個人の価値観をもって生活してきたため、安心した毎日を過ごせたことでしょう。

しかし、これからは違います。例えば、ダイヤモンドの原石が様々な鉱石とぶつかり合い、削られ、磨かれ、本物の輝きとなるように、自分が正しいと思い込んでいた価値や考えは、違う地域、違う文化の中で生活してきた本校の仲間と出会うことで、大人としての感性や魅力ある人間性を育んでいくことができると確信します。

私は、このコラムを通して何度もお伝えしていますが、社会に一步出れば、思い通りにいかないことばかりです。そのため、自分の考えを相手に同調させたり、融合させたり、時には、撤回することもあります。自己承認の欲求を満たすことばかりに力を注いでいる若者が多くなる中、周囲の状況を正しく判断できる大人としての生きる力は、自分の置かれている立場や環境が今までとは違うことを自覚し、新しい自分との出会いを自信へと変えていくことで身に付いていくのではないかと思います。この4月に出会った友だちとは、ぜひ、違う意見、違う考えがあれば、なぜ、そのような意見や考えをもっているのか、お互いが納得するまで話し合ってみてください。「そうか!」「なるほど!」そんな新しい意識が芽生えてくれば、きっと新しい自分と出会う大きな一歩になるはずです。

令和6年4月、ハワイ出身の元横綱曙の曙太郎さんが亡くなりました。とても若い年齢であり、後進の育成にも意欲を示していましたが、とても残念です。彼は、18歳という若さでハワイから日本に移り住み、日本の国技である相撲道の世界に飛び込みました。伝統を重んじる所作が多く、考えも意見も、時には個性でさえも、アメリカ人とは違うという自覚を持たされたことでしょう。曙さんが、角界で活躍したことは皆さん御存知のとおりですが、彼の自著本「横綱」では、大きな節目には、必ず雪が降ったと回想されています。常夏の国ハワイ出身の彼にとって、雪は、日本に来るまで見たことが無かったでしょう。横綱昇進での明治神宮土俵入りの日、長野五輪開会式での横綱土俵入りを披露した日、引退を決めた日も、外は雪でした。曙さんは、この偶然かもしれない節目の時、空を見上げて雪を見ることで、生まれた環境とは違うことを自覚し、新しい自分との出会いを自信に変えていったと思います。どのような理由があっても、本校に入学した皆さんが、「新しい自分」に出会うことで一步一步成長してくれることを期待しています。

がんばれ新田生!

令和6年5月

